

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1495200048
法人名	社会福祉法人 ばなな会
事業所名	グループホーム のんびりーす
訪問調査日	平成 23 年 8 月 29 日
評価確定日	平成 23 年 9 月 30 日
評価機関名	株式会社R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495200048	事業の開始年月日	平成21年4月1日	
		指定年月日	平成21年4月1日	
法人名	社会福祉法人 ばなな会			
事業所名	グループホーム のんびりーす			
所在地	(2 1 1 - 0 0 2 5)			
	川崎市中原区木月 4 - 5 4 - 1 4			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	17 名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成23年8月20日	評価結果 市町村受理日	平成24年2月15日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の特性を生かした(環境資源)柔軟なサービスを提供することができるよう【地域包括支援センター】【民生児童委員】等による協働を図りつつ、個々の利用者様へ物語作りにつとめています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成23年8月28日	評価機関 評価決定日	平成23年9月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①経営母体は社会福祉法人ばなな会で、バナナ園生田の杜、泉を新たに加えて、グループに8つのグループホームを持っている。理事長はグループホーム経営に大きな理想を持ち、その保有するノウハウを生かしてホーム運営を進めている。画一的なホーム運営はせず、施設の長にその運営の自由を与えているため施設長のポリシーが反映された特色あるホームが展開されている。このホームは昨年12月に中原区小田中からここ中原区木月に移転し、管理者も変わり、新たな気持ちで現在体制作りに取り組んでいる。移転に当たり、入居者に動揺があるのではと案じられたが、馴染みの職員と一緒に移転なのですぐに新たなホームに馴れ、平穩に楽しく日常が過ごすことが出来、職員一同安堵している。場所は綱島街道から少し入った場所で、近くに鶴見川の支流の矢上川が流れ、平坦な地形で、川に沿って桜並木があり春は散歩でお花見を楽しんでいる。新管理者は、入居者第一の介護方針で「その人らしい生活を支えたい」と考えており、職員のチームワークを先ず優先して介護にあたらうと考えている。②
 介護計画については、本部のケアマネジャーのサポートを受けながら、本部の介護ソフト・ケアマネくんを活用し、新宿区版アセスメントシートを活用し、一部ICF方式を取り入れ、利用者に「やれることはやって頂く」体制でケアを進めている。特に新宿区版アセスメントの活用ではインテーク面接を丁寧に行い、生活のバックグラウンドを詳細に把握するよう努めている。③地域との交流としては、昨年12月に移転して来たばかりであり、これからであるが、運営推進会議を通じ、民生児童委員や地域包括支援センターとお付き合いから徐々に地域との交流を深めて行きたいと考えている。また、生活保護の方もいるので中原区保健福祉センターの方や地区社会福祉協議会の方とは関係があるので、これら地域資源を活用して行きたい。10月の運営推進会議では服薬に関するミニ研修会を企画している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム のんびりーす
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の特性を生かした柔軟で多様なサービスを提供することができるよう『明るく、楽しく、自由に』をモットーに、独自の『交流』をあげ、全職員その理念を共有し、実践に努めている。	地域の特性を生かした柔軟で多様なサービスを提供することができるよう『明るく、楽しく、自由に』をモットーに、独自の『交流』を挙げ、理念のスタッフへの周知を図り、具体的には、朝礼をユニット合同で行い、毎日理念の意識化、共有化に努めている。このホームは昨年12月に中原区小田中からここ中原区木月に移転し、管理者も変わり、新たな気持ちで現在体制作りに取り組んでいる。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域における環境資源（地域包括支援センター、地区民生児童委員、当グループ内における他の支援事業等）の有効活用へその時々生まれるニーズに応える努力を図りながら取り組んでいる。	『交流』とはホームのイベントに関する地域との交流と地域ホームのイベントに関するホームの参加である。地域との交流としては地域における環境資源（地域包括支援センター、地区民生児童委員、当グループ内における他の支援事業等）の有効活用とその時々生まれるニーズに応える努力を図りながら取り組んでいる。まだ移転して来て新しいので、ここからスタートしたい。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	環境資源の一つとして、特に運営推進会議を通じ、地区民生児童委員、地域住民の方、及びご家族様への活動報告と合わせ、ご説明、地域貢献につなげている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、年6回のペースで開催、「地域包括支援センター」「民生児童委員」「ご家族様」とのイベントを盛り込みながら、中身の濃い会議を行っており、その中で頂戴したご意見はサービスの向上へ活かしている。	運営推進会議は年6回の開催を目指して推進している。地域包括支援センター、民生児童委員、ご家族とイベントを盛り込みながら、中身の濃い会議を行っており、その中で頂戴したご意見はサービスの向上へ活かしている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている入居者様が多く、「福祉事務所、あんしんセンター」との連携、相談、報告や「地域包括支援センター」との意見交換、相談等協力関係を築いている。	生活保護を受けている利用者もいるので、市役所、福祉事務所、あんしんセンターとの連携、相談、報告や地域包括支援センターとの意見交換、相談等を行いながら協力関係を築き取り組んでいる。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営基準第97条第5項の遵守へ、「身体拘束ゼロの手引き」による具体的な行為及びその弊害を研修を通して職員全員が理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関施錠については、一階玄関は居室やリビングに近い事や玄関前が道路のため、防犯及び安全面から入居時説明の下施錠している。	身体拘束について、職員は具体的な行為及びその弊害を研修を通して全員が理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、一階玄関は居室やリビングに近い事や玄関前が道路の為、防犯及び安全面から入居時説明の下、施錠している。閉塞感を持たぬよう近くの鶴見川の支流の矢上川沿っての桜並木のもと春は散歩でお花見を楽しむなど散歩の強化などを図っている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法（本部通達）を回覧、管理職を含めた全職員の理解度のチェック及び正しい知識の共有を図り、新たな職員には、新入職員教育としての研修内容に組み入れ、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設には、生活保護受給者が多いこともあり、生活保護関連についての意識は強い。特に金銭管理面での支援で、契約能力有無による[あんしんセンター]の活用や成年後見制度への利用等、必要性を関係者から学ぶ機会が多く、また、講習会や研修会を通じても活用につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や入居希望の時点で、入居の諸条件、[地域密着型サービスの特徴や金銭面、解約等]の要件を説明、入居時には「契約書」「重要事項説明書」等による説明後、質問を受けながら理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議やご家族の面会時などに、自由に意見交換できるよう雰囲気作りや環境作りに努めている。ご意見箱と合わせ、外部機関の相談窓口も提示している。	運営推進会議や家族会及び面会時には、自由に意見交換できる雰囲気作りに努めている。意見箱と合わせ、外部機関の相談窓口も掲示し、自由に相談出来るように配慮し、入居説明の折にも説明している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部での定期的な研修会を通じ、事業方針、活動状況など自由な意見交換を行えるよう場作り「ボトムアップ」がなされており、事業所では朝夕礼や「管理者会議録」による報告、回覧、ケア会議等、それによる意見を吸い上げ、反映につなげている。	本部は、職員体制のボトムアップを図るため、定期的な研修会を実施し、全職員が事業方針、活動状況などを、自由も意見交換を行えるような場作りに努めている。事業所では朝夕礼、管理者会議の報告・回覧、ケア会議等による意見を吸い上げを行い、事業方針、活動への反映につなげている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「企業は人なり!」、当社は特に人材の育成に力を入れており、各階層に応じた教育体系の下、月次、年次計画により実施され、実績に応じた評価を行っている。それにより、自己開発への職場環境にもつながっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当社は、特に「人材の育成」にちからをいれており、職制毎にその人に合った研修の場を与えている。若手を中心に社内研修や社外研修（実践者研修、実践社研修終了者は次のステップへリーダー研修を）の機会を確保し、資格所得の支援にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	当グループの福祉振興会が主催する認知症講座や、ネットワーク作りなど、他事業者との連携、知識の共有など意見交換等を積極的に行って、サービスの質の向上へつなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の環境の変化による不安を取り除くよう受容と傾聴に努め、ご本人の困っている事、望まれる事についてしっかりと受け止め、安心した暮らしが提供できるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族様に対しても受容と傾聴の心で、不安やご要望、意向等よく話し合い、安心して納得していただけるよう説明、信頼しあえる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談初期から、ご本人及びご家族等のニーズ、意向により、必要とする支援を見極めつつ、「環境は最大の看護用品」ともいわれており、「環境資源」の活用を含め、幅広いサービス支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	たくさんの「物語」を持った人生の先輩。生活の知恵も授けていただきつつ、ご本人が出来ないところをさりげなく支援、暮らしを互いに支えあう信頼関係を築くよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって、ご家族の存在はとても大きく、精神的（情緒的支援）ケアでは計りしれません。ご家族様がいつでも気軽に立ち寄れる「雰囲気」作りに努め、共にご本人を支えていく関係を支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域での散歩、施設のイベント、町内の季節行事等、積極的に参加していただき、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	移転があり、街の風景が変わったが、早くこの町に馴染め、住み慣れた地域にして、散歩、施設のイベント、町内の季節行事等、積極的に参加して行き、馴染みの人にも来てもらい、関係が途切れないよう支援して行くつもりである。認知症の進行、ADLの低下もあるので、早くここが自分の住み家となるよう支援を続けている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数による共同生活の中、共有する空間での活動に孤立化しないよう、レクリエーションでは、複数のニーズに応え、利用者同士協力しあい作り上げる作業につなげている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養への転居等、契約終了後についても「その後の暮らしぶり」の様子伺いに訪ねたり、引き続き「バナナニュース」の送付など関係継続に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	主体性を尊重しながら、個々の人の望む生活や過ごし方（優しさがあり、信頼があり、笑顔があり）へ、「その人中心」の視点で把握に努め、困難な場合でも尊敬と共感を持って関わりつつ検討している。	主体性を尊重し、個々人の望む生活や過ごし方（優しさがあり、信頼があり、笑顔があり）、本人中心の視点で把握に努め、困難な場合でも尊敬と共感を持つように努めている。個人々が出来ることを生かして生活してもらい、例えばフロア毎にお花見など出かける機会を作っている。楽しければ、次にどこへ行きたいと希望が出て来る、そうした生活を大切にするケアを追及して行くことを続けて行きたいと考えている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	人間は「生涯発達」、残存能力の着目のみならず、生涯発達という視点で、ご利用に至るまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境（資源）について、ご本人やご家族様の協力を多面的に得ながらQOLの維持・向上へ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の表情、動作、会話、食事等、その人にとって、過ごしやすい環境（スタッフを含め）にあるのか、注意深く観察し、また[有する力・・・]についても定期的なモニタリングを実施し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や主治医との連携を図りながら、毎月行うカンファレンス（サービス担当者会議）にて意見を反映、ご利用者の心身の変化を把握、評価（モニタリング）のあと現状に即した介護計画を作成している。	介護計画についてはICF方式による個別ケアに重点を置き、やれることはやって頂ける体制作りと、外出等の希望があれば叶えてあげるケアを推進している。毎月行うカンファレンスではご家族や主治医との連携を図りながら、利用者の心身の変化を把握、評価（モニタリング）のあと、現状に即した介護計画を作成するようにしている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、昼夜の介護記録（業務日誌、エピソードをまじえた生活記録、健康チェック等）を個別に記入し、そのポイントを朝夕の申し送り時に報告、情報の共有を図っている。特に医師、ご家族のご意見等、より周知徹底へ「連絡ノート」を活用し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域における環境資源（地域包括支援センター、当グループ内における他の支援事業等）の有効活用へその時々生まれるニーズに応える努力を図りながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慣れ親しんだ地域での穏やかに安心して暮らせるよう、フォーマル、インフォーマル問わず、「使えるものは何でも資源」として、町内の季節行事参加や事業所のイベント開催、また、防災訓練による地域住民との緊密化へ協働を図れるように努めていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居時、かかりつけ医の確認と、連携している地域の協力医療機関との有り方を説明、ご本人及びご家族の希望を大切に、納得いただいた上で、敵切な医療（24時間医療連携）を受けられるよう支援している。	入居時に、本人のかかりつけ医の確認と医療連携している協力医療機関との関係をご家族に説明し、利用者及びご家族に納得の上、主治医を選択している。（現在は全員連携医療機関を受診している。）利用者が適切な医療（24時間医療連携）を受けられるよう支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、日々の関わりの中で、入居者の状態の変化や「気づき」、疑問点等を看護師に相談、協働しながら個々の利用者への『日常の健康管理』につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、訪問診療の主治医より既往歴等、必要情報を提供し、早期退院へつながるよう努めている。また、退院時には、ケースワーカー等を通じて情報交換や相談に努め、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、「重度化対応」がますます重要な部分になると予想され、当事業所としても、『重度化に関する指針』については、契約時にご家族様としっかり読み合せ確認し、その趣旨内容を理解していただいている。また、医師、看護師とも協議の上、医療連携の同意をかわしている。	今後、「重度化対応」が益々重要な部分になると予想され、当事業所としても、『重度化に関する指針』については、契約時にご家族としっかり読み合せ確認し、その趣旨内容を理解して頂いている。また、医師、看護師とも協議の上、医療連携の同意を交わし、重度化した場合や終末期のケースには再度ご家族、医師、ホームの3者で話し合いの上、方針を決めることにしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎講座『緊急時の対応と介護事故』マニュアルによる勉強会を実施し事故発生時に備えているが、今後、防災訓練等、所轄の消防署を通じて、実践力（AED使用法、緊急蘇生方法等）を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練（避難訓練）を行い、避難経路等提示し、安全確保に努めている。また、特に夜間の災害発生時には地域住民の協力が不可欠であり、町内会を通じて協力体制を築いている。	年2回の防災訓練（避難訓練）を行い、避難経路等提示し、安全確保に努めている。また、特に夜間の災害発生時対応には地域住民の協力が不可欠であり、町内会を通じて協力体制を築くよう努めている。運営推進会議のテーマとしても災害対策を話し合うようにしている。備蓄については普通レベルで準備している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『個人情報保護規定マニュアル』の遵守に努め、日々の支援におけるプライバシーの空間確保、声掛けに、その人の人格を尊重し、誇りを損ねないよう配慮した接し方、及び記録管理を行っている。	『個人情報保護規程マニュアル』に沿い、利用者の遵守に努め、日々の支援においてプライバシーの空間確保や声掛けの際には、利用者の人格を尊重し、誇りを損ねないように配慮し、接し方及び記録管理に気をつけている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが持つ意欲、積極性、嗜好、願望等ストレングスを理解し、導き出せるようインフォームド・コンセント・チョイス（説明と同意、選択）の接し方で具体的なものを示し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人中心」に、日々の過ごし方のペースを大切に、無理をさせないように、ご本人の意思や満足度を第一に考え、食事、入浴、レクリエーション等ご本人の意思を尊重、柔軟に対応支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの整容や、衣服については、ご本人と一緒に会話、楽しみながら色、組合せ等その人らしく気持ちのよい日々を過ごせるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食による食材によって、季節感のあるメニューになっており、カロリー、塩分についても健康に配慮されている。また、入居者様の能力に応じ、職員と一緒に準備（モヤシの髭取り、テーブル拭き等）や後片付けをされており、美味しい食事が出来上がるプロセスをに大事に支援している。	食材会社のレシピ付きの食材を活用している。配食による食材によって、季節感のあるメニューで食事が提供出来ている。カロリー、塩分等、健康にも配慮されている。また、入居者様の能力に応じ、職員と一緒に食事の準備（モヤシの髭取り、テーブル拭き等）や後片付けをされており、美味しい食事に繋がるプロセスを大事にした支援を行なっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを通じ、栄養管理された献立「カロリー計算、塩分量、糖分等」に基づき、調理を行い、個々の人の摂取制限や嚥下能力（お粥、とろみ等）にも合わせながら、水分摂取を含めた1日の摂取量を集計、健康管理につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持は、ともすると誤嚥性肺炎にもつながりかねない重要なケアの一つとして、個々の人の能力「麻痺側の残渣物に注意」、心身状況に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン（リズム、尿便意へのご様子）を把握し、定時声掛けや誘導によって失敗やオムツの使用を少なく、排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターン（リズム、尿便意へのご様子）を把握し、定時の声掛けや誘導によって失敗やオムツの使用を少なくし、排泄の自立に向けた支援を行っている。自立は半分位、誘導で8割程度の排泄がトイレで行えている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の入居者様の排便状況を把握し、便秘防止へ工夫した飲食物の摂取を図り、適度に室内での体操を混じえながら予防に努めている。また、便秘傾向の方には主治医と相談のうえ、その人に合った下剤の服用も検討している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調など、入浴に支障のないことを確認の上、入居者の希望にあわせて、お湯の温度設定や回数、安全面で浴室と脱衣所との温度さえ野気配り、季節には、『ゆず湯』『菖蒲湯』などで、楽しい入浴につなげている。	一人ひとりのその日の体調や入浴に支障のない事を確認の上、利用者の希望に合わせて、お湯の温度設定や回数に配慮し、安全面において浴室と脱衣所との温度差への気配りや、季節によって『ゆず湯』『菖蒲湯』等で楽しい入浴を支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間（無理のないレクリエーション活動や時には足浴含め）を多めにするなど安眠への工夫を図りながら、ご本人の意思を尊重し、その時々状況に応じて適宜休息を取り入れられるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報については、全職員が「服薬チェック表」及び『薬の説明書一式ファイル』にて目的、服作用、用法、用量を理解しており、日々の服薬状況観察から変化があれば、速やかに主治医への報告につなげるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の中で、調理や食事、その他種々のお手伝い（もやしの髭取り、洗い物、下膳、お掃除、洗濯物の取りこみ、洗濯たたみ、カーテン開け閉め等）で、自分が何かの役に立っている『自己存在感』、幾つになっても「生涯発達」を大切に張り合いのある暮らしへ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じていただくためにも、できるだけ散歩やお買い物に出掛けられるよう外出の機会を設けている。また、本人の希望が普段行けない場所『お墓参り等』については、ご家族様と相談のうえ可能な範囲でご家族と一緒に外出できるよう支援している。	戸外への支援では、季節を肌で感じて頂く為にも、出来るだけ散歩や買い物に出掛けられるよう外出の機会を設けている。本人の希望で普段行けない場所等については、ご家族様と相談し、可能な範囲でご家族と一緒に外出できるよう支援している。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩がてら、ジュースや嗜好品などをご自分の財布（預り金）から拠出、お金を持つことの大切さ、それを使用できることへの存在感など、一人ひとりの希望や力に応じて自己決定を尊重しながら支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日々の暮らしの中で、時にはご本人の思い、希望で、ご家族様の声が聴きたい！願いを聞いてほしいとの申し出もあり、また、暑中見舞いや年賀状の作成のお手伝い等やり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が主体的に「生活の場」として、季節感のある花や飾りつけを職員と一緒に製作したり、共用空間にも配慮しながら居心地よく過ごせるよう工夫している。	生活の場として、季節感のある花や飾りつけを職員と一緒に制作したり、共用空間にも配慮しながら利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。掲示物としては写真、利用者の作品などが飾られ、掲示スペースは余り広くないが工夫されている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時には、落ち着いて一人になれたり、気の合った入居者同士で、それぞれの『物語』を語り合ったりできるようリビングにはソファを置き、穏やかに過ごしていただく工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、ご本人やご家族と相談しながら、「馴染みのもの」を持参していただけるように説明している。また本人と相談し居室内の模様替え（好みの写真をはったりなど）ご本人様の居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際に、利用者やご家族と相談しながら、ご本人の馴染みのあるものを持参して頂けるよう説明している。また、本人と相談し居室内の模様替え（好みの写真を貼る等）を本人と相談しながら、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室には手摺りを取付け、テーブルやソファの配置を工夫し、その人にとって、安全かつ自立できる動線として可能か、『自分のことは自分でする』の主体性を尊重した生活が送れるよう工夫している。		

事業所名	グループホーム のんびりーす
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の特性を生かした柔軟で多様なサービスを提供することができるよう『明るく、楽しく、自由に』をモットーに、独自の『交流』をあげ、全職員その理念を共有し、実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域における環境資源（地域包括支援センター、地区民生児童委員、当グループ内における他の支援事業等）の有効活用へその時々生まれるニーズに応える努力を図りながら取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	環境資源の一つとして、特に運営推進会議を通じ、地区民生児童委員、地域住民の方、及びご家族様への活動報告と合わせ、ご説明、地域貢献につなげている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、年6回のペースで開催、「地域包括支援センター」「民生児童委員」「ご家族様」とのイベントを盛り込みながら、中身の濃い会議を行っており、その中で頂戴したご意見はサービスの向上へ活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている入居者様が多く、「福祉事務所、あんしんセンター」との連携、相談、報告や「地域包括支援センター」との意見交換、相談等協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営基準第97条第5項の遵守へ、「身体拘束ゼロの手引き」による具体的な行為及びその弊害を研修を通して職員全員が理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関施錠については、一階玄関は居室やリビングに近い事や玄関前が道路のため、防犯及び安全面から入居時説明の下施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法（本部通達）を回覧、管理職を含めた全職員の理解度のチェック及び正しい知識の共有を図り、新たな職員には、新入職員教育としての研修内容に組み入れ、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設には、生活保護受給者が多いこともあり、生活保護関連についての意識は強い。特に金銭管理面での支援で、契約能力有無による[あんしんセンター]の活用や成年後見制度への利用等、必要性を関係者から学ぶ機会が多く、また、講習会や研修会を通じて活用につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や入居希望の時点で、入居の諸条件、[地域密着型サービスの特徴や金銭面、解約等]の要件を説明、入居時には「契約書」「重要事項説明書」等による説明後、質問を受けながら理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度の運営推進会議やご家族の面会時などに、自由に意見交換できるよう雰囲気作りや環境作りに努めている。ご意見箱と合わせ、外部機関の相談窓口も提示している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部での定期的な研修会を通じ、事業方針、活動状況など自由な意見交換を行えるよう場作り「ボトムアップ」がなされており、事業所では朝夕礼や「管理者会議録」による報告、回覧、ケア会議等、それによる意見を吸い上げ、反映につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「企業は人なり!」、当社は特に人材の育成に力を入れており、各階層に応じた教育体系の下、月次、年次計画により実施され、実績に応じた評価を行っている。それにより、自己開発への職場環境にもつながっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当社は、特に「人材の育成」にちからをいれており、職制毎にその人に合った研修の場を与えている。若手を中心に社内研修や社外研修（実践者研修、実践社研修終了者は次のステップへリーダー研修を）の機会を確保し、資格所得の支援にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	当グループの福祉振興会が主催する認知症講座や、ネットワーク作りなど、他事業者との連携、知識の共有など意見交換等を積極的に行って、サービスの質の向上へつなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の環境の変化による不安を取り除くよう受容と傾聴に努め、ご本人の困っている事、望まれる事についてしっかりと受け止め、安心した暮らしが提供できるよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族様に対しても受容と傾聴の心で、不安やご要望、意向等よく話し合い、安心して納得していただけるよう説明、信頼しあえる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談初期から、ご本人及びご家族等のニーズ、意向により、必要とする支援を見極めつつ、「環境は最大の看護用品」ともいわれており、「環境資源」の活用を含め、幅広いサービス支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	たくさんの「物語」を持った人生の先輩。生活の知恵も授けていただきつつ、ご本人が出来ないところをさりげなく支援、暮らしを互いに支えあう信頼関係を築くよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって、ご家族の存在はとても大きく、精神的（情緒的支援）ケアでは計りしれません。ご家族様がいつでも気軽に立ち寄れる「雰囲気」作りに努め、共にご本人を支えていく関係を支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域での散歩、施設のイベント、町内の季節行事等、積極的に参加していただき、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数による共同生活の中、共有する空間での活動に孤立化しないよう、レクリエーションでは、複数のニーズに応え、利用者同士協力しあい作り上げる作業につなげている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養への転居等、契約終了後についても「その後の暮らしぶり」の様子伺いに訪ねたり、引き続き「バナナニュース」の送付など関係継続に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	主体性を尊重しながら、個々の人の望む生活や過ごし方（優しさがあ、信頼があり、笑顔があり）へ、「その人中心」の視点で把握に努め、困難な場合でも尊厳と共感を持って関わりつつ検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	人間は「生涯発達」、残存能力の着目のみならず、生涯発達という視点で、ご利用に至るまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境（資源）について、ご本人やご家族様の協力を多面的に得ながらQOLの維持・向上へ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の表情、動作、会話、食事等、その人にとって、過ごしやすい環境（スタッフを含め）にあるのか、注意深く観察し、また[有する力・・・]についても定期的なモニタリングを実施し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や主治医との連携を図りながら、毎月行うカンファレンス（サービス担当者会議）にて意見を反映、ご利用者の心身の変化を把握、評価（モニタリング）のあと現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、昼夜の介護記録（業務日誌、エピソードをまじえた生活記録、健康チェック等）を個別に記入し、そのポイントを朝夕の申し送り時に報告、情報の共有を図っている。特に医師、ご家族のご意見等、より周知徹底へ「連絡ノート」を活用し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域における環境資源（地域包括支援センター、当グループ内における他の支援事業等）の有効活用へその時々にも生まれるニーズに応える努力を図りながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	慣れ親しんだ地域での穏やかに安心して暮らせるよう、フォーマル、インフォーマル問わず、「使えるものは何でも資源」として、町内の季節行事参加や事業所のイベント開催、また、防災訓練による地域住民との緊密化へ協働を図れるように努めていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医の確認と、連携している地域の協力医療機関との有り方を説明、ご本人及びご家族の希望を大切に、納得いただいた上で、敵切な医療（24時間医療連携）を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、日々の関わりの中で、入居者の状態の変化や「気づき」、疑問点等を看護師に相談、協働しながら個々の利用者への『日常の健康管理』につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、訪問診療の主治医より既往歴等、必要情報を提供し、早期退院へつながるよう努めている。また、退院時には、ケースワーカー等を通じて情報交換や相談に努め、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後、「重度化対応」がますます重要な部分になると予想され、当事業所としても、『重度化に関する指針』については、契約時にご家族様としっかり読み合せ確認し、その趣旨内容を理解していただいている。また、医師、看護師とも協議の上、医療連携の同意をかわしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎講座『緊急時の対応と介護事故』マニュアルによる勉強会を実施し事故発生時に備えているが、今後、防災訓練等、所轄の消防署を通じて、実践力（AED使用法、緊急蘇生方法等）を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練（避難訓練）を行い、避難経路等提示し、安全確保に努めている。また、特に夜間の災害発生時には地域住民の協力が不可欠であり、町内会を通じて協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『個人情報保護規定マニュアル』の遵守に努め、日々の支援におけるプライバシーの空間確保、声掛けに、その人の人格を尊重し、誇りを損ねないよう配慮した接し方、及び記録管理を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが持つ意欲、積極性、嗜好、願望等ストレングスを理解し、導き出せるようインフォームド・コンセント・チョイス（説明と同意、選択）の接し方で具体的なものを示し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	[その人中心] に、日々の過ごし方のペースを大切に、無理をさせないように、ご本人の意思や満足度を第一に考え、食事、入浴、レクリエーション等ご本人の意思を尊重、柔軟に対応支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの整容や、衣服については、ご本人と一緒に会話、楽しみながら色、組合せ等その人らしく気持ちのよい日々を過ごせるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食による食材によって、季節感のあるメニューになっており、カロリー、塩分についても健康に配慮されている。また、入居者様の能力に応じ、職員と一緒に準備（モヤシの髭取り、テーブル拭き等）や後片付けををしており、美味しい食事が出来上がるプロセスをに大事に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを通じ、栄養管理された献立「カロリー計算、塩分量、糖分等」に基づき、調理を行い、個々の人の摂取制限や嚥下能力（お粥、とろみ等）にも合わせながら、水分摂取を含めた1日の摂取量を集計、健康管理につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持は、ともすると誤嚥性肺炎にもつながりかねない重要なケアの一つとして、個々の人の能力「麻痺側の残渣物に注意」、心身状況に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン（リズム、尿便意へのご様子）を把握し、定時声掛けや誘導によって失敗やオムツの使用を少なく、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の入居者様の排便状況を把握し、便秘防止へ工夫した飲食物の摂取を図り、適度に室内での体操を混じえながら予防に努めている。また、便秘傾向の方には主治医と相談のうえ、その人に合った下剤の服用も検討している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調など、入浴に支障のないことを確認の上、入居者の希望にあわせて、お湯の温度設定や回数、安全面で浴室と脱衣所との温度さえ野気配り、季節には、『ゆず湯』『菖蒲湯』などで、楽しい入浴につなげている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間（無理のないレクリエーション活動や時には足浴含め）を多めにするなど安眠への工夫を図りながら、ご本人の意思を尊重し、その時々状況に応じて適宜休息を取り入れられるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報については、全職員が「服薬チェック表」及び『薬の説明書一式ファイル』にて目的、服作用、用法、用量を理解しており、日々の服薬状況観察から変化があれば、速やかに主治医への報告につなげるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の中で、調理や食事、その他種々のお手伝い（もやしの髭取り、洗い物、下膳、お掃除、洗濯物の取りこみ、洗濯たたみ、カーテン開け閉め等）で、自分が何かの役に立っている『自己存在感』、幾つになっても「生涯発達」を大切に張り合いのある暮らしへ支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じていただくためにも、できるだけ散歩やお買い物に出掛けられるよう外出の機会を設けている。また、本人の希望が普段行けない場所『お墓参り等』については、ご家族様と相談のうえ可能な範囲でご家族と一緒に外出できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩がてら、ジュースや嗜好品などをご自分の財布（預り金）から抛出、お金を持つことの大切さ、それを使用できること存在感など、一人ひとりの希望や力に応じて自己決定を尊重しながら支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日々の暮らしの中で、時にはご本人の思い、希望で、ご家族様の声が聴きたい！願いを聞いてほしいとの申し出もあり、また、暑中見舞いや年賀状の作成のお手伝い等やり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が主体的に「生活の場」として、季節感のある花や飾りつけを職員と一緒に製作したり、共用空間にも配慮しながら居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時には、落ち着いて一人になれたり、気の合った入居者同士で、それぞれの『物語』を語り合ったりできるようリビングにはソファを置き、穏やかに過ごしていただく工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、ご本人やご家族と相談しながら、「馴染みのもの」を持参していただけるように説明している。また本人と相談し居室内の模様替え（好みの写真をはったりなど）ご本人様の居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室には手摺りを取付け、テーブルやソファの配置を工夫し、その人にとって、安全かつ自立できる動線として可能か、『自分のことは自分でする』の主体性を尊重した生活が送れるよう工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム
 のんびりーす

作成日 _____
 平成23年8月20日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	昨年の12月に、新しい 住所地である中原区木月 へ移転。新住所地での地 域密着型対応へ環境資源 含め、新たに、取組み が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター 対応 ・民生 自動委員への対応 ・地域ボランティアの受 入れ（音楽など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回以上、バナ ナニュース等の配布、 及び訪問 	平成23年 12月末
2	2				

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。